

第40回

うつのみやこども賞だより

令和5年度 5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『だれもみえない教室で』

工藤 純子／著 (講談社)



令和5年10月1日

読めは
愉快だ
宇都宮

宇都宮市立図書館
UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

～読んだ本の感想より～

- 最初は仲が良かったのに、それがこわれてしまうのが悲しいと思ったけど、キャンプで仲なおりでできたのがよかった。
- 見て見ぬふりをした子ども、謝らせて終わりにした教師がこれじゃいけないと変わろうとしていて良かったと思いました。
- はやとがせいやのランドセルの中に金魚のエサを入れたとき、さいしょはとてもどうしてそんなことするんだとびっくりしました。
- 人それぞれ問題をかかえているんだと思った。
- いじめをしているがわと、されているがわのきもちをよみとれて、おもしろかった。
- 四人はもともと仲が良かったのに颯斗がみんなをいじめたから仲が悪くなったけど、さいごは颯斗に会いに行くことになって、本当の友達はこのものなのかなと思った。
- 88ページ「みんなが見て見ぬふりする世の中なんて嫌じゃない」という言葉が心に残った。

『バンピー』

いとう みく／著 (静山社)

- 成が蛭にちゃんといっているし、妹たちのめんどうをみているのが、大変そうなのにすごい。
- 蛭はだれなのかときどきしながら読みました。
- 蛭ちゃんがいきなり家族になったりしていてとても驚きました。成はいろいろあったりして大変だったと思うけど、それでも一歩一歩前に進めていてとてもすごいと思いました。
- 蛭が最後、成に自分の口から真実をのべるところが勇気ある行動だと思い、すごいなと思いました。
- 一人の兄が、三人のいもうとを育てるなんて大変で、自分じゃできそうもないと思いました。

『どすこい!』

森埜 こみち／作 (国土社)

- 元力士の老人が少しずつ心を開いていき、ぶっくらぼうだけどときかくなアドアイヌもよかった。たかめあえる、いっしょにがんばれるライバルのようなともだちがいたらいいなと思った。
- 決勝前の会議の時からおわりまで自分がそこにいるかのようにわくわくした。
- ごうに勝つために二人で元相撲取りのだがし屋に行ったり、作戦を考えたりしているのがおもしろかった。
- わしやのおじちゃんは、こわい人かな?と不安になっていましたが、わしやのおじちゃんがまわしをくれて、健太と凡はうれしかっただろうなと思ってます。

『和算の道をひらけ!』

鳴海 風／作 (あかね書房)

- 当時の日本人が世界で最も計算がとくだった国民だったことにおどろいた。
- 七兵衛が計算して安全に行ったのに佐武のせいで事故がおき人が死んだのは七兵衛くやしかったと思う。
- 七兵衛は北嵯峨野の人たちのために、ずい道をほっているのが心に残った。「子供でも楽しく勉強できる「塵劫記」のねずみの問題がおもしろかった。